



## アフガン女性への連帯と包括的な政府樹立への要請

ヒューマンライツ・ナウは、アフガニスタンにおける情勢の展開を受け、女性やマイノリティーを含むすべての人の人権が保障されるよう求める。

現在アフガン女性がタリバンに対して女性の教育を受ける権利や社会進出を求めるデモを行っているが、我々はすべてのアフガン女性に連帯していることをここに表明する。過去 20 年において、アフガニスタンでは地域差はあるものの女性の権利の一部については一定の向上が見られた。伝統的な地域社会の中においても長老たちが理解を示し、女性の教育へのアクセス・女性の生活の向上が進められてきた地域もある。

今後樹立される予定の新政府は、女性の権利促進を行うべきである。タリバンは暫定政府の一部の閣僚の発表をし、包括的な政府をめざすと発表したように、多民族の社会構成およびジェンダーに配慮した包括的な政府樹立を要請する。

またアフガニスタン国内のすべてのステークホルダーが、今後武力闘争をはじめとする武力によるいかなる手段も用いずに、非暴力的な手段を用いてアフガニスタンの国づくり社会づくりを行うことを強く要請する。その解決方法が、シリア、イラクで見られたような IS をはじめとする過激派組織の台頭、流入を防ぐと強く確信する。

9.11 テロ事件以後続いたアフガニスタンへの米国の軍事行動とその後の戦闘では、幾多の国際人権、人道法違反の結果、未曾有の命が奪われ、その責任は何ら問われないまま今日まで来た。武力によって平和を築いたり、人々を「解放」することができないことを国際社会は教訓とすべきである。

各国政府は、新しい状況下で迫害を受ける危険にさらされた人々を難民として広く受け入れるべきである。そして、子どもや女性を含むアフガニスタンの人々の尊厳ある生存を手助けするための人道的な援助を継続するよう要請する。

以上